



今年(2024年)の稲作は...

斑点米カメムシ

要注意!

斑点米カメムシ類(写真1)は籾を吸汁し斑点米を発生させます。わずかな斑点米の発生でも玄米の品質低下(等級落ち)を引き起こすため、水稻の重要害虫に位置づけられています。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



アカヒゲホソミドリ
カスミカメ



アカスジカスミカメ

写真1 斑点米カメムシ類

(農業総合研究センター防除課資料より)

カメムシが増加する要因が揃っています!!

昨年の夏は猛暑!

昨年(令和5年)の夏は、記録的な猛暑でした。夏が暑いと、斑点米カメムシの数が増加します。その影響で水稻の品質が低下した年でした。



今年の冬は暖冬

今年(令和5~6年)は暖冬で経過しました。暖冬の年は、寒さで死んでしまう虫の数が少ないため、春から夏にかけて水田に飛来する虫の数が多くなります。



水稻の品種構成の変化

近年、主食用米に加え、飼料用米などの作付が増加しています。飼料用米などは、刈取りが遅くなるため、秋にカメムシのエサとなる稲が長くほ場にあることで、カメムシの栄養条件が良くなっています。



今年の夏も猛暑予想

気象庁から、今年の夏も暑くなるとの予報が出されています。また、エルニーニョが収束しラニーニャ現象になることが予想されていることから、今年の夏も暑くなりそうです。



水田内の除草

水稻出穂前に結実するヒエの穂、イヌホタルイの小穂は、斑点米カメムシ類の誘引源・発生源となるのでイヌホタルイ結実前に除草しましょう。



【イヌホタルイの小穂】

水田周辺の除草

2回の草刈りを行うことで、水田周辺のイネ科雑草の穂を長期間抑え、カメムシ類の水田への侵入を低減することができます。

- ① 1回目: 水稻の出穂2～3週間前
 - ② 2回目: 水稻の出穂期
- } 2回の草刈り
- (1回目に刈ったイネ科雑草が出穂する前)

- 注1 ① 出穂2～3週間前の除草だけでは、イネ科雑草が再出穂してカメムシ類が飛来するので、必ず①②両方で除草を行いましょう。
- 注2 ② 出穂期頃のための除草だけでは、イネ科雑草の穂に集まっていたカメムシ類を水田へ追い込み、水稻の穂を集中加害させることとなります。①② 両方の除草ができない場合は、水稻の出穂期10日前までに除草を済ませましょう。

薬剤防除

- ① 1回目: 出穂期～出穂10日後まで
 - ② 2回目: 1回目から7～10日後
 - ③ 3回目: 2回目から7日後(多発地) → 粒剤
- } 液剤

- 注3 ③ 中山間地(多発地)において、液剤(2回)と粒剤(1回)を組み合わせた3回防除が有効です。(3回目に粒剤散布を行うことで、登熟期後半までカメムシの幼虫の加害を抑制し、斑点米の被害を低減することができます。)

飼料用米に対しても防除を徹底することで
水田にカメムシを近づけないようにしましょう!



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう!



身支度も
万全にし
てまる!

- ① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ② 農薬の飛散防止を徹底する
- ③ 農薬の使用状況を正確に記帳する

問い合わせ先

JAかみつが南部営農経済センター米麦畜産課 0289-71-1125
JAかみつが日光営農経済センター米麦畜産課 0288-22-1125
栃木県上都賀農業振興事務所 0289-62-6125
栃木県農政部経営技術課 028-623-2322